

イラク内閣誕生

大野元裕

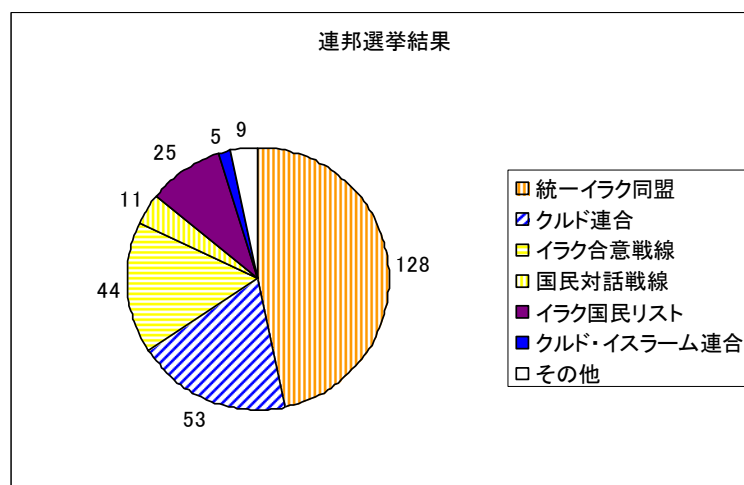
19日、マーリキー首相は、閣僚名簿を議会に提出、すべてのポストについて承認を受けた。昨年12月15日に本格政権樹立に向けた議会選挙が実施されて以来、実に5ヵ月という長い道のりを経た組閣であった。現時点で判明している情報等を元に、とりあえずの感想を述べてみたい。

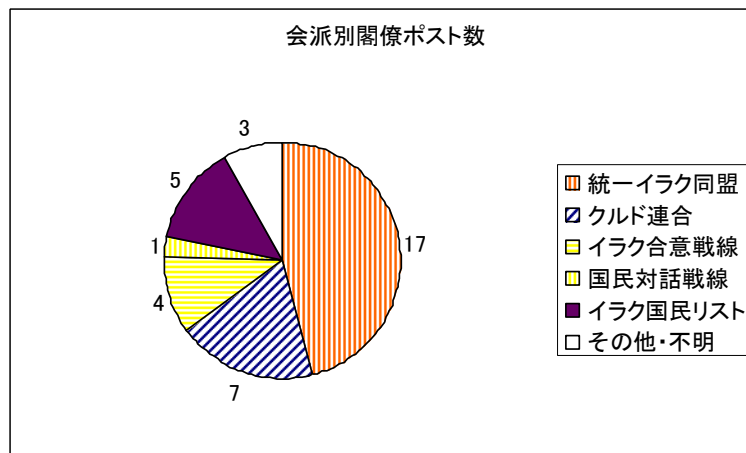
アティーヤ副議長が述べたとおり、戦後初めて民主的に選出された本格政権が成立した歴史的な日がきたことは疑いない。しかしながら、政府の樹立は目的であると共に通過点でもあり、マーリキー首相自身が発言している通り、さまざまな優先的課題が山積みであることも事実である。結論として言えば、今次政府樹立は重要な一步ながらも、イラクの混乱を招いてきた原因を払拭するものではなく、政府が直面する課題にいかに対処するかが、イラクの安定を占う上で重要であると言えよう。

1. 国民融和は成し遂げられたのか

今回の組閣の結果を一見すると、内閣は、国会に議席を有する主要な会派・政党をある程度網羅しており、国民融和色が感じられる政府となった。またマーリキー首相は、当初から国民融和の重要性を掲げ、宗派・民族的な配慮よりもイラク国家の利益を強調してきた。

しかしながら現実には、党派・民族的配慮と党派間の力関係が組閣の結果から見て取れる。たとえば、首相がシーア派系最大会派の統一イラク同盟(以下、UIA)から、副首相がクルド同盟(以下、KU)およびスンニー派の合意戦線から出ている様子は、主要な宗派・民族である三派に対する配慮であろう。また、主要各派の議会選挙結果の議席配分とほぼ同じ配分で内閣ポストが振り分けられている状況は偶然ではないだろう。





全体として、主要なポストはUIAとKUにより占められているという印象が強い。伴食的色彩が強い大臣ポストをオファーされたスンニー派系の国民対話戦線は、すでに政府と距離を置くことを表明し、また、国防大臣ポストを要求した合意戦線は国会承認の延期を求めたが受け入れられず、内閣信任決議採択前に議場から退席してしまった。つまり、スンニー派の不満が残る組閣と言わざるを得まい。

UIAは首相、副大統領、財務相、石油相という重要ポストに加え、ほぼ半分の閣僚ポストを獲得した。しかしながら、ジャアファリー前首相続投拒否に至る経緯や、内相更迭要求などに直面し、満点の結果を残すことはできなかったのではないかと。そこにはUIA内の足並みの乱れも影響があったのではないだろうか。UIA選出閣僚には、ダアワ党とサドル派出身者が多く含まれる一方で、イラク・イスラーム革命最高評議会（以下、SCIRI）はその勢力を後退させている。また、SCIRIと共に与党内野党化したファディーラ党は、まったくポストを得ていないようである。

それに比較して、最もまとまっている感の強いKUは満足しているのではないだろうか。そもそも選挙後の政治的混乱を生んだ「ジャアファリー降ろし」を深刻なものとしたのはKUであった。前回の組閣の際にもKUは、「アラーウィ・カード」をちらつかせつつ、ジャアファリー就任に反対したが、その時には、連邦制議論の前に反対を撤回せざるを得なかった。今回も再度「アラーウィ・カード」を出して、UIAに反対する可能性を明言し、結局「ジャアファリー降ろし」の流れを作り出すことに成功した。UIAの結束の弱体化がクルドを利することも忘れてはならない。結果としてKUは、「キング・メーカー」としての印象を強めたのではないかと。さらに、スンニー派の反対があつたにもかかわらず、外相ポストを確保した。いわゆる主要5ポストの中で、他のポストに先駆けて決定していた人事であった。また、計画相こそスンニー派に明け渡したものの、サーレフ副首相を閣内にとどまらせたことで、外国からの援助を所管する計画省へのコントロールの「ツール」を維持した。また、水資源相並びに環境相ポストには、アラーウィ政権時代から同一の人物を大臣に据えており、当該省庁に対する影響力を確固たるものとしている。12月の選挙で国会

議席数を減少させたにもかかわらず、クルドは政治力を明確に発揮したといえよう。

宗派・民族間の対立と組閣の遅れの中で、「漁夫の利」を得たのがイラク国民リストではないだろうか。前述の表のとおり、国会議席数に比較してイラク国民リストは多くの閣僚ポストを得ることになった。イラク国民リストは宗派・民族の超越と実務能力をアピールしながら、12月の選挙の最大の敗北者となったが、ジャアファリー降ろしの際に存在感をアピールした。また、この政党の中立色と実務色が、国民融和・実務内閣を主張するマーリキー首相の立場に合致したのではないだろうか。実際、与党内のファディーラ党の要求をはねつけたマーリキー首相は、組閣の直前までイラク国民リストとの協議を続けてきたとされている。これらの結果、イラク国民リストは内閣において躍進したようである。

このイラク国民リストの躍進の「割を食った」のがスンニー派系の合意戦線並びに対話戦線であったようだ。国民融和内閣に関する最大の課題はスンニー派の参加とそのあり方であった。スンニー派の内閣への参加が課題となる場合、合意戦線は、自派の取り込みが自然であると考え、それゆえに早い時期から政府への参加を表明してきたはずであった。しかしながら実際には、イラク国民リストが取り込まれてスンニー派に割り当てられるポストが分割され、条件闘争に明け暮れていた合意戦線は思惑通りの閣僚を送り込むことがかなわなかったようである。

そもそも今回の組閣であるが、宗派・民族や党派の利益よりもイラク国家の利益を優先させた国民融和内閣であるとの評価は難しい。諸派が参加したことは事実ながらも、結局、党派の利害関係が閣僚ポストを決定したようであり、不満が残った単位も再び宗派・民族のようである。政治的な進展は評価されるべきながらも、国家の利益を優先させなければイラクの安定には程遠いとの評価は、暫定政府や移行政府樹立の際に下された評価と変わっていない。

2. 個別のポストについて

首相職をめぐる紛糾は見苦しいものであったが、閣僚ポストについても円滑には進展しなかったようである。主要ポストとされる、内務、外務、国防、財務、石油の5ポストが代表的である。内相については、内務省こそが暗殺部隊により反対派を殺害・拘束・拷問していると批判され、宗派・民族対立を作り出している原因の一つであると指摘されてきた。結局、焦点となった内相ポストについては合意ができず、首相兼任で問題が先送りされた。内相については、チャラビー前副首相の就任も噂されたが、チャラビー副首相自身、民兵組織を有しており、前内相に対する批判に鑑みれば、起用に問題がある。米国はカーシム・ダーウード元国務相の内相もしくは国防相就任を推したようだが、サドル派の反対の前に、ダーウードの目はいったん消えたようだ。その一方で、UIA内で宗派色が弱く民兵を保持していないナシール・アル＝アーミリーやアブドゥ・ル＝ホマイル・アッ＝ターヘルなどの名前が噂されているものの、このポストをめぐる争いの根は浅くない。

同様に、国家治安担当国務相および国防相についても、19日までに合意はできなかった。

国防相ポストについては、政権参加を継続的に表明してきたスンニー系の合意戦線の不満を煽る原因となっている。なお、財務相については、批判の集まったジャブル内相が横滑りする政治的ポストになった。

石油相は、UIA 内の亀裂を浮き彫りにした。UIA 内の首相選出選挙で、ダアワ党とサドル派の前に敗れた SCIRI とファディーラ党は、与党内の敗者となったが、特に、前回の組閣の際にも石油相ポストを要求しながらこのポストを取れず、会派離脱の噂も流れたファディーラ党は、同党から石油相を輩出できなかったことに強い不満を感じているようである。結果としてファディーラ党は、会派離脱・野党結成すら表明している。石油相に任命されたシャフルスターニー氏は独立系で、宗派色が強くはない。会派から自由な人物が選定されるとの首相の当初の意向からは若干外れているかもしれないが、事前の割くとして起用されたであろうシャフルスターニー石油相は、省内の汚職根絶を表明しており、これは首相の強い意向を受けたものとされる。

3. 新政府が直面する問題

新政府は多くのきわめて深刻な問題に直面している。その第一は治安の改善と民兵組織の解体であろう。両方共に一朝一夕に解決する問題ではなく、今後の新政府の手腕が注目される。他方で、多くのポストを与えてマーリキー内閣の屋台骨となっているサドル派並びにクルド勢力は、民兵の維持を主張しているところ、民兵解体並びに政府部隊への糾合は、内閣自体を揺さぶりかねない問題である。

イラク戦争後の政府の無能と混乱はすでに国民の政府に対する信頼を失墜させたが、新生イラク作りに国民が参画した 12 月の選挙以降の政治的混乱は、国民の信頼をさらに貶めたといえよう。本格政権が発足した今は、「モメンタム」があり、失われた国民の政府に対する信頼を回復する上できわめて重要なときである。国民の信頼を回復するためには、治安の回復、復興の進展、多国籍軍撤退への道のり等が重要であるが、その前に、まずは兼任ポストに納得できる人物を早期に起用し、国会の信を受けることが必要である。

さらに、憲法に従えば、6 月には憲法の見直しが行われなければならない。この条項はスンニー派勢力の政治プロセスへの参加とリンクしており、見直しが反故にされる場合には、今回の組閣で不満を強めたスンニー派勢力が、国民融和の動きを葬る可能性すらある。また、本格政権発足後には、さまざまな法整備や中央省庁の権威回復など多くの課題があるが、政治の進展と共に多国籍軍の問題が浮上するのではないだろうか。日本を含めた多国籍軍参加国は、イラクの状況の改善に合わせて撤退を望んでいるはずだが、イラク国民一般も同様である。しかしながら、多国籍軍からイラク部隊に対する治安権限の委譲等が円滑に進まない場合には、問題が大きくなる可能性がある。また米軍の年内完全撤退は困難であろうが、12 月には多国籍軍駐留期限が終了するところ、米軍が駐留を継続するのであれば、安保理のお墨付きかイラク政府との二国間協定締結が必要になる。しかしいずれについても、楽観的な見通しをいただける材料は少ない。特に、万が一、対イラン攻撃が近く

なる場合には、在イラク米軍の軍事力は重要になろうが、国連安保理決議に基づく多国籍軍の一つとしてイラクに駐留する米軍が、イラクから第三国を攻撃することは法的に無理があろう。しかし、シーア派系政党とイランとの関係を含めた現在の状況を見れば、国会の三分の二の賛成と共に米軍との安全保障条約等を締結することは困難なのではないか。

マーリキー首相は、シーア派の利益の守護者という就任前のイメージとは異なり、国民融和路線を歩んでいる。その一方で就任直後にシスターニー師を訪問し、正当性の獲得に努めた。このようにパフォーマンスという点では、評価すべき第一歩を踏み出したが、首相のいづく課題はパフォーマンスだけでは解決できない。マーリキー内閣が課せられた課題は極めて多く、深刻である。今は、組閣の余韻に浸って立ち止まるのではなく、政治プロセスの進展のモメンタムを、国民の信頼回復の機会とし、多くの問題に解答を出すことが求められていると言えよう。

所管	氏名	所属会派(政党)	宗派・民族	前職
首相	ヌーリー・アル＝マーリキー	UIA(ダアワ党)	シーア	国民議会議員
副首相	ブルハム・サーレフ	KU(PUK)	クルド	計画相
副首相	サラーム・アツ＝ゾーバイー	合意戦線	スンニー	
内務(首相兼任)	ヌーリー・アル＝マーリキー		シーア	南部担当内務省副大臣
石油	フセイン・アツ＝シャフルスターニー	UIA(独立系)	シーア	国民議会副議長
国防(副首相兼任)	サラーム・アツ＝ゾーバイー		スンニー	
外務	ホシャイヤール・ジバーリー	KU(KDP)	クルド	外相
財務	バヤーン・バーキル・アツ＝ズベイディ	UIA(SCIRI)	シーア	内務相
司法	ハーシム・アツ＝シーブリー	イラク国民リスト	スンニー	
計画	アリー・パーバーン	合意戦線	スンニー	
電力	カリーム・ワヒード	UIA(独立系)	シーア	電力省副大臣
保健	アリー・アツ＝シャンマリ	UIA(サドル派)	シーア	
教育	ホダイル・アル＝フザイー	UIA(サドル派)	シーア	
高等教育	アブドゥ・ツ＝ジヤブ・アル＝アジーリー	合意戦線	スンニー	
貿易	アブドゥ・ル＝ファラーフ・アツ＝スーダーニー	UIA(サドル派)	シーア	
農業	ヨアラブ・ナアジム・アル＝アブーディ	UIA(サドル派)	シーア	
工鉱業	ファウジー・アル＝ハリリー	KU	クルド	
運輸	カリーム・マフディ・サーレフ	UIA(サドル派)	シーア	
通信	ムハンマド・タウフィーク・アラウウィ	イラク国民リスト	シーア	
住宅建設	バヤーン・デザイー	KU	クルド	
地方自治公共事業	リヤード・ガリーブ	UIA	シーア	
水資源	アブドゥ・ル＝ラティーフ・ラシード	KU(PUK)	クルド	水資源相
労働社会問題	ムハンマド・アール・ラーディ	UIA	シーア	
科学技術	ラーイド・ファフミー	イラク国民リスト	シーア	
環境	ニルミン・オスマーン	KU	クルド	環境相
スポーツ青年	ジャーシム・ムハンマド・ジャアファル	UIA:(トルコマン戦線)	シーア	
文化	アスアド・カマル・ハーシミー	イラク国民リスト	クルド	
人権	ウィジュダーン・ミハイール	イラク国民リスト	キリスト	
移民・移住	アブドゥ・ツ＝サマド・ラフマーン・スルターン	KU	シーア	
国務大臣	観光・考古	リワー・スメイシム	UIA(サドル派)	シーア
	国家安全保障担当(副首相兼任)	ブルハム・サーレフ		クルド
	市民社会担当	アーデル・アル＝アサディ	UIA	シーア
	外務担当国務	ラーフィア・ジヤード・アル＝イーサーウィ	合意戦線	スンニー
	国民議会担当国務	シファー・アツ＝サーフィー	UIA	シーア
	女性担当	ファーティン・アブドゥ・ツ＝ラフマン	対話戦線	スンニー
	国民対話担当国務	アクラム・アル＝ハキーム	UIA	シーア
	地方公共団体担当	サアド・ターヒル・アブドゥ・ハラフ	UIA	スンニー
	無任所	サアド・アツバース・アル＝オレイビー		シーア
	無任所	アリー・ムハンマド・アフマド		
無任所	ハサン・アツ＝サーリー		シーア	

